

基本情報

No.	2021.12.07 No.2
ケースタイトル	20代女性「接客業なので目立たずに前歯のすきっ歯を治したい」インビザラインで治療した症例
年齢と性別	20代女性(接客業)
ご相談内容	「前歯のすきっ歯(正中離開)が大きいため、矯正をしたい」「接客業なので、ワイヤー矯正ではない目立たないインビザラインで治したい」とご相談いただきました。
カウンセリング・診断結果	口腔内を診察したところ、前歯のすきっ歯以外にも、左右の上顎中切歯に大きな隙間があいている典型的な「正中離開」の状態でした。左右の奥歯の前後関係は正常でしたので、奥歯の位置は変えずにスペースを閉じるようにしました。また、奥歯は上下の細かい咬み合わせのズレや深い咬み合わせがあり、奥歯の修正も必要でした。
行ったご提案・治療内容	前歯部のすきっ歯だけではなく、奥歯の段差や歯列の不揃い、咬み合わせの深さも治す全体矯正が必要で、目立ちにくい矯正装置を患者様ご希望でしたので、インビザラインのコンプリヘンシブパッケージにて治療を行いました。
治療期間	歯を動かす動的治療: 10か月 (約6回の来院数: アポイント間隔 1~3か月) 後戻りを観察する保定治療: 10か月 (約3回の来院数: アポイント間隔 3~6か月)
おおよその費用	約 ¥880,000(調整料は別途 ¥5,500/回)
術後の経過・現在の様子	上顎中切歯の正中離開でしたので、マウスピース使用の協力性も非常に良く、追加ライナーの作製は1回のみで治療が完了しました。
治療のリスクについて	①歯根吸収の可能性 →矯正治療前後で歯根が短くなる可能性があります。 ②歯槽骨吸収・歯肉退縮の可能性 →矯正治療前後で歯を支える骨が吸収される可能性があります。それとともに歯肉が下がったり、ブラケットライアングル(歯と歯肉の間に隙間が生じる状態)になったりする可能性があります。 ③顎関節症の可能性 →矯正治療中に顎関節症になる可能性があります。 ④マウスピースが長時間使えない場合にはワイヤー矯正に変更する可能性 →マウスピースは毎日20時間以上の使用が必要です。使用できない場合には、ワイヤー矯正に変更します。